



北海道の集治監（樺戸、空知、釧路、網走、十勝） ～北海道開拓を支えた近代化遺産～



北海道は北方にある地理性から、集治監（国立刑務所）の設置が集中した。建設は樺戸（現月形町、1881年）、空知（三笠市、1882年）、釧路（標茶町、1885年）、網走（1891年）、十勝（帯広市、1893年）の順であった。目的は初期の西南戦争政治犯収容、後期に重大犯罪人隔離で、北辺防衛と北海道開拓用の北見と上川道路・鉄道建設（樺戸、空知、網走）、幌内炭鉱開発（空知）、硫黄鉱山開発（釧路）、農地開発（帯広）等で、北海道の初期インフラ整備と地方文化形成をになった。